

光潮会報



も く じ

本年同窓会総会の中止			大学・短大等の合格者数	8
新高校校歌の制定	守田義昭	3	編集後記	10
ごあいさつ	村田修一	4	役員一覧	11
つなぐ想いと伝統	益田圭一	5	校歌・応援歌	12
同じ季節を生きた	弘中幸雄	6	新校歌	13
校歌の作曲にあたって	神田清治	7	旧校歌	14



山口県立光高等学校

光潮同窓会

第73号

令和2年9月

「校旗一覽」



「徽章一覽」



表紙の題字……………柏木 裕美さん(昭和 53 年卒)
 表紙の作品……………『菓子器』寸法 25cm 材 肥松 中村 一正さん(昭和 43 年卒)
 徽章デザイン(新光高等学校)…小野寺 満さん 岩手県奥州市
 着色は広報独自に行いました。 岡村 晃治さん(昭和 33 年卒)

本年同窓会総会の中止 新高校校歌の制定

会長 守田 義昭 (昭和42年卒)



同窓会をはじめ関係の皆さん、平素から光潮同窓会に対するご支援とご協力に感謝いたします。

さて、母校光高等学校は、4年前に、創立80周年を迎え、母校体育館において、記念式典を開催しています。

同窓会の創立は、学校の創立から遅れること5年、本年度で発足から79年目を迎えますので、来年は80周年という大きな節目の年を迎えることとなります。

同窓会は、卒業生相互の親睦と交流、卒業生などに対する支援など母校光高校の発展と活性化に向けて、とりわけ、学校に対する支援と母校生徒に対する部活動や教育活動の支援などを積極的にを行っています。

① 夏の同窓会総会の中止

本題の最初は、本年8月に開催することにして光潮同窓会の総会と懇親交流会について、新型コロナウイルスの感染拡大防止を図るため、中止、開催しないことになりました。

山口県内と光市内での感染者は、最近発生していませんが、同窓会総会は、屋内での開催となり、参加者同士の席がどうしても近くなり、現今しきりに言われています「ソーシャルディスタンス」の確保については、なかなか難しいのではないかと考えました。

また、お盆時期の開催で、東京など県外からの参加者も多くみられます。

このような状況を踏まえて、同窓会執行部で協議した結果、本年は誠に残念ながら、「中止」ということにさせていただきました。

② 統合再編による新高校の

学科編成などについて

両高校の再編統合によって、新高校の場所については、現在の光

高校の場所になり、新高校の名称が光高校になったことなどについては、昨年の号で報告しています。本号では、学科編成や学科内容、校歌などについて報告することにします。

まず、校歌について、作詞と作曲のいずれも県教育委員会により、公募されることになりました。

私は、再編統合の当初の段階では、現在の光高校の校歌にしてほしいとの要望を出していましたが、新高校の校歌であることから、新たな校歌になるということでした。

本年4月8日に、光高校体育館で開催された「山口県立光高等学校開校式及び令和2年度入学式」において、新高校の校歌が披露されました。

校歌の作詞は、元光高校校長を務められました弘中幸雄先生によるものでした。

新光高校の校歌として、素晴らしい校歌になっていました。

新高校の学科と定員は、普通科160人と総合学科80人の2学科

なっています。
本年度は1年生のみが新高校、2年生と3年生は統合前の生徒になります。

来年度の令和3年度は、1年生と2年生が新高校生となり、3年生のみが統合前の生徒になり、3年度末に、統合前の従前の光高校は閉校になる予定です。

新光高校の生徒が全学年そろうのは、今から2年後の令和4年度からになります。

新高校同窓会の統合など、今後どのようにしていくのか、光丘高校同窓会に相談してみたいと考えられています。

両高校が閉校するまでには結論を出す必要があります。

最後に、卒業生の皆さんへお願いですが、どのようなことでもありませんので、母校が少しでも発展しますよう、忌憚のないご意見やご提案などを同窓会までお寄せください。

同窓会をはじめ、関係の皆様がますますのご活躍とご健勝を祈念し、結びとします。



ごあいさつ

校長 村田 修一



光潮同窓会の皆様には、平素から母校の教育活動の充実のため、様々な角度から多大な御支援・御協力を賜っておりますことに、心から厚くお礼申し上げます。

私は本年四月に着任した校長の村田と申します。私事で恐縮ですが、この三月に娘が加わり、我が家の半数が光潮同窓会員となりました。また、四月初めに手にした同窓会名簿には、生涯の恩師をはじめ、お世話になった多くの方々のお名前が刻まれており、これまでの御厚情に感謝の念を新たにするとともに、御縁をいただいた職責の重さに身の引き締まる思いであります。甚だ微力ではございますが、本校の更なる活性化に向けて鋭意努力してまいりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

さて御案内のとおり、県立高校再編整備計画に基づく光高校と光丘高校の再編統合により、普通科と総合学科を併置する新たな県立光高等学校が開校いたしました。

新型コロナウイルス感染症が県内でも確認される中、四月八日には皆様のお蔭をもちまして「開校式及び令和二年度入学式」を本校体育館にて挙行することができました。全日制普通科一五七名、総合学科七九名、定時制普通科四名の新入生を迎え、全校生徒五一八名でのスタートを切ったところです。

新たな光高校では、両校のよき歴史と伝統を継承すべく、校訓「質実剛健、自主創造」のもと、文武両道を貫く中で未来の社会に力強く対応できる人間の形成をめざして、知・徳・体・情の調和のとれた発育と自己の伸長を図る教育の推進を目標に掲げ、新たにコミュニティ・スクールの仕組みを導入し、光市唯一の県立高校として地域から信頼される学校づくりを推進してまいります。

一方で、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度当初から臨時休業を余儀なくされ、ようやく五月二十五日に学校再開となりました。現在は、新しい生活様式を踏まえた感染防止策を講じた上で、夏季休業の縮減など、授業時間の確保に努めながら、教育活動に取り組んでいくところです。

このような中、本稿にて、本校の近況に係る次の三点をお知らせいたします。

まずは、卒業生の進路状況についてです。今春の全日制卒業生百三十三名のうち、広島大学や山口大学などの国公立大学に延べ二十一名が合格し、十九名が進学しました。四年制大学へは八十八名、短大等を含めた全進学者は百十四名でした。特別編成クラスや単位制の特色等を生かしながら、引き続き進学指導に力を入れていきたいと考えております。

次に、部活動についてです。昨年度は、ヨット部・陸上部が全国大会に出場し、バスケットボール部女子が中国大会出場、硬式野球部が県ベスト4に勝ち上がるなど、まさに日頃の精進が実を結ぶ成果を収めることができました。

本年度は、両校の部活動の伝統を引き継ぎ、運動部十部、文化部九部が活動しております。長期の

活動休止が続き、インターハイや夏の甲子園大会、吹奏楽コンクール等も中止となりましたが、多くの競技・部門において県単位での代替大会が開催されることとなり、三年次生の最後の活躍の場に向けて、日々熱心に取り組んでいます。光丘高校生と一緒に活動する部もあり、硬式野球部では光高二・三年次生チームと、光丘・光高一・二年生合同チームが出場します。

最後に定時制募集停止についてです。この度、県央部に多部制定時制高校が令和四年度に開校することが決定し、併せて本校を含む県立六校の夜間定時制募集停止が発表されました。長年にわたる本校定時制教育の歴史に幕を閉じることは誠に残念ですが、在学生及び来年度の入学生の指導・支援に、最後まで全力を傾けてまいります。時代の変遷により高校教育も変革の真只中ですが、いかに時代が変わろうとも、皆様の変わらぬ母校愛が、本校生徒・教職員の励みとなっており、引き続き温かい御支援、御協力をお願い申し上げます。

結びに、光潮同窓会のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げます。ごあいさつといたします。

「つなぐ想いと伝統」

令和2年度光潮同窓会 実行委員長 益田 圭一 (平成7年卒)



本年度は「光潮同窓会総会・幹事会」は平成7年の卒業生が幹事学年で、実行委員長を務めさせていただいておりました益田と申します。

本年四月、県立光高校と県立光丘高校の歴史と伝統を受け継いだ新しい光高校が誕生し、光高校は、新たな歴史の第一歩を踏み出しました。生徒の皆さんは、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、様々な活動が制限されているところではありますが、生徒の皆さんには、毎日の学校生活を充実させ、光高校としての新たな歴史をしっかりと刻んでいたいただきたいと願っています。

さて、光潮同窓会につきまして

は、平成7年に光高校を卒業した同級生とともに、昨年8月に、昨年度の実行委員長であった秋山和宏先輩から「総会旗」を引き継ぎ、本年8月9日に開催を予定していた「光潮同窓会総会・幹事会」に向け、同級生が一致団結をして様々な準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら、本年度の開催は中止となりました。

現在、本年7月から8月にかけて開催される予定であった東京オリンピック・パラリンピックの延期をはじめ、全国的に様々なイベント等の中止が決定する中、新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常生活に制限し、光潮同窓会の活動にも大きな影響を及ぼしていますが、この困難を乗り越えた際には、これまで以上に同窓会会員相互の絆が深ま

ることを信じているところです。

私たちが幹事学年である本年度の「光潮同窓会総会・幹事会」の開催は叶いませんでしたが、来年度の「光潮同窓会総会・幹事会」の開催に向け、同窓会会員の想いやこれまで積み重ねてきた光潮同窓会の伝統について、これから、次年度の幹事学年である平成8年の卒業生にしっかりと確実に引き継ぎいでいきたいと考えおり、それが、本年度の幹事学年であった私たちの使命であると認識をしています。

最後になりますが、本年度の「光潮同窓会総会・幹事会」の開催を進めるにあたり、多くの皆様方にご協力をいただきましたことに対し、厚くお礼申し上げますとともに、光潮同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



「同じ季節を生きた」

弘 中 幸 雄



そのいきさつは兼永会長さんから教えていただき、併せて現在地への校舎移転の苦労話も承った。校長室には移転前の校舎の航空写真が掲げられている。

私が校長として光高校にお世話になったのは、もう二十年近く前になる。当時の兼永芳也同窓会長さんはじめ、河村幸昌PTA会長さんなど多くの同窓生の方々に学校運営への献身的なお力添えをいただいた。

あれは在任2年目だったと思う。同窓会総会に市出身の歌手あさみちゆきさんがゲストとして招かれた。生の歌声を前にしてNHKの歌番組に出演されただけのことはあるとうなり、その場でCDを買い求めたが、中でも『黄昏シネマ』は心を揺さぶられた。「♪同じ季節を生きた」というフレーズにとりわけ胸をつかれ、今でも思いついてはラジカセに耳を傾けている。

その頃、校長公舎は聖光高校の前であり、そこから徒歩3分ほどのところに「天一」というお寿司屋さんがあった。時おり暖簾をくぐっては一献、二献と盃を重ね心身をほぐさせてもらったことを忘れない。どちらの建物も今は姿を消してしまった。

昨年11月、新聞で統合光高校の校歌・校章募集の記事を目にした途端、内海の景色とともにいくつもの思い出が胸に流れ込んで来た。たった3年間ではあっても、同じ季節を生きた学び舎の新たな船出である。

はなむけに応募してみようとペンを取った。最初に胸に降りてきたのは朝焼けの海を背景に「光のスクラム」という一語だった。この年、「ワintonチーム」の合言葉で活躍したラグビー日本代表チームのイメージが重なっていたかも知れない。

た。実は、今もその想いはこの六尺の身に行ったり来たりしている…。末尾ながら、在職時の光潮同窓会の御厚情に改めて感謝申し上げますとともに、同窓生諸氏ならびに新生光高校に幸多からんことを心からお祈りしてやまない。

後は思い出を頼りに、光高校を舞台に同じ季節を生きる生徒らへの声援を言葉に綴っていく作業だった。普通科であれ総合学科であれ、高校生活とは一人ひとりがそれぞれなりの夢を探す場であることに変わりはない。ただ、蓄えた力を実際に試すのは五年後、十年後、あるいは二十年後になるだろう。その時に備えて青春のかけがえのない四季をひたむきに過ごしてほしいと願いつつ、語句を吟味した。そう心を込めた草案ながら、それでも担当者から採択の報を受けた時は果たしてこれでいいのかと戸惑いもし



「校歌の作曲にあたって」

こう だ
神 田 清 治



私は、教員という仕事柄、校歌を身近な存在であると感じている。入学したら繰り返し聴き・歌い・覚える。行事や儀式など節目では必ず演奏し、卒業式の最後は涙ながらに斉唱し、学び舎を巣立つ。卒業後も心の中に残っていることだろう。在校生はもちろん卒業生にとって、校歌とは自分がその学校に所属している証、あるいは誇りそのものである。

今回、そんな校歌の作曲依頼を受けた。しかも統合による新高校の校歌である。新入生にとっては高校生活のスタートの証であり、在校生や卒業生の誇りや伝統を受け継ぐこ

とを考えれば、背負う重さは普通の校歌の何倍にもなる曲である。身が震えた。

いただいた歌詞を熟読しながら、新しい光高校校歌にふさわしい楽曲とはどうあるべきかを考えた。先述の「重さ」はもちろん、これから先、百年以上歌い継がれていく曲である。伝統的なスタイルの中にも新しさを取り入れた作曲技法を模索する日々が続いた。その結果たどり着いたのは、

①歌詞に素直な旋律

②歌いやすい音域

③自然で美しい和声(和音進行)

の3点を重視した楽曲づくりであった。つまり、誰にとっても歌いやすく覚えやすい、そして心に残りやすい曲ということである。背負うものが多い曲ほど、多くの方の心に入りやすい曲であるべきだという考えに至ったわけである。調性やテ

ンポ設定など専門的な見地から検討を行った上で、歌詞の抑揚に合っているかという作曲作業上常識とされるチェックはもちろんのこと、自分で一日数十回くり返し歌い、飽きがこない曲となるように旋律や和音を微調整した。こうして「山口県立光高等学校校歌」を完成させることができた。

四月八日の開校式で、光高・光丘高の先生方の歌唱による校歌を拝聴したときの気持ちは感無量であった。

この校歌は生まれたばかりである。多くの方に触れていただくことで、誇りや伝統を纏いながら育っていく。現在、コロナ禍で、スロースタートとなっているが、いずれ立派に羽ばたくであろうその時を楽しみに待っている今日この頃である。



編集後記

今年の夏も暑い(熱い)という字を当てるのが正確かもしれない。加えてコロナウィルス拡大が世の中を攪乱させている。行事はすべて中止、学校も卒業式、入学式は来賓など入れずに最小の人数で行った。光潮同窓会も中止、関東支部、関西支部も中止となった。

このような状況のなかで「光潮会報」も発行を考えたらという意見もあった。しかし新光高等学校が生誕した年であり、歴史的な出来事なので何としても発行に漕ぎつきたいと考えた。特に校歌について、これから歌い続けられることを考えると作詞、作曲された方の想いを、この機会に聞いておかなければと考え記事として取り上げることにした。会報の内容はページ数も少なく少し寂しいが発行できたことが喜びである。歴史的行事の多くが中止となり、高校生活3年間で最も輝き一生の思い出となるべく各種大会が中止となり涙を流した生徒も多くいたと思う。卒業生として何かできることはないのかそんな事を考えながら編集後記を書いている。

昭和43年卒 小林 一登

平成 31 年度末の人事異動について

転 入

職 名	教 科	氏 名	旧 所 属
校 長	数 学	村 田 修 一	岩国総合高校
教 諭	国 語	小 畠 芳 野	岩国・広瀬分校
教 諭	国 語	金 子 義 則	本校
教 諭	国 語	阿 川 典 子	防府高校
教 諭	国 語	久 山 町 子	熊毛南高校
教 諭	国 語	徳 永 志 保	高校教育課
教 諭	国 語	藤 本 ゆ り	徳山高校(定)
教 諭	社 会	太 郎 良 康 幸	光丘高校
教 諭	社 会	金 光 和 也	岩国工業高校
教 諭	社 会	木 村 浩 司	岩国商業高校
教 諭	数 学	西 元 教 善	高森高校
教 諭	理 科	吉 野 昌 弘	新南陽高校

職 名	教 科	氏 名	旧 所 属
実習助手		遊 井 喜 一	新規採用
教 諭	保 体	澤 野 晃 士	山口農業高校
教 諭	保 体	高 村 栄	田布施農工高校
教 諭	保 体	廣 田 英 恵	熊毛北高校
教 諭	芸 術	井ノ上 拓郎	周防大島高校
教 諭	英 語	加 藤 敦 子	本校
教 諭	英 語	橘 野 紀 恵	徳山・徳山北分校
教 諭	家 庭	佐 藤 明 子	華陵高校

職 名	教 科	氏 名	旧 所 属
非常勤	芸 術	棟 近 綾 奈	新卒
非常勤	芸 術	中 山 幸 子	光丘高校
非常勤	英 語	河 村 か よ 子	本校
非常勤	英 語	江 浪 恵 美	下松高校
非常勤	家 庭	棟 近 節 子	光丘高校

職 名	氏 名	旧 所 属
事 務 長	室 田 紀 泰	柳井農林水産事務所
主 任	安 渡 香 織	田布施農工高校
臨 時 主 事	小 林 亮 子	
臨 時 校 務 技 師	上 村 茂	
非 常 勤 職 員	松 原 芳 佳	
事 務 補 助	山 本 薫	

転 出 (退職)

職 名	教 科	氏 名	在職期間	転出先等
校 長	社 会	国 清 賢 一	2年	高校教育課
教 諭	国 語	井 宮 昇 子	12年	熊毛南、華陵
教 諭	国 語	金 子 義 則	9年	退職、本校
教 諭	国 語	金 本 裕 二	9年	退職
教 諭	国 語	小 畠 裕 将	1年	徳山商工高校
教 諭	社 会	橋 本 健 太 郎	15年	岩国商業・東分校
教 諭	社 会	足 立 理 絵	3年	徳山商工高校
教 諭	理 科	田 中 与 子	4年	防府高校
教 諭	理 科	白 木 恵 理	1年	岩国工業高校
教 諭	保 体	今 田 充	8年	岩国高校
教 諭	保 体	砂 田 将 英	4年	熊毛北高校
教 諭	芸 術	中 村 亮	4年	宇部高校
教 諭	英 語	加 藤 敦 子	8年	退職、本校
教 諭	英 語	梅 津 遼 太	1年	退職
教 諭	英 語	河 村 か よ 子	4年	本校非常勤
教 諭	家 庭	村 上 由 香	6年	光丘高校

職 名	教 科	氏 名	在職期間	転出先等
非常勤	公 民	蔵 田 智 樹	1年	下松高校
非常勤	数 学	高 岸 昭 範	5年	下松高校
非常勤	保 体	梶 山 久 世	1年	田布施総合支援

非常勤継続				
中野行真(地歴)、吉長幸視(数学)、藤井省三(理科)、奥田孝子(英語) 清家律子(美術)、西村如海(情報)、貞末希美子(養教)				

職 名	氏 名	在職期間	転出先等
事 務 長	相 川 和 久	1年	退職
主 査	谷 彰 夫	2年	岩国工業高校

平 31. 令和 2 年度 光潮同窓会役員 ◎部長 ○副部長

職 務	氏 名	卒	担 当
顧 問	村 田 修 一		光高校校長
顧 問	室 田 紀 泰		光高校事務長
顧 問	桑 原 範 恵		光高校全日制教頭
顧 問	四 田 ち さ と		光高校定時制教頭
会 長	守 田 義 昭	42	
副 会 長	小 林 一 登	43	◎広報
副 会 長	富 田 木 綿 子	54	広報
副 会 長	田 中 謙 史	61	企画・運営
幹 事	市 来 健 之 助	32	◎企画・運営
幹 事	木 村 幸 子	37	企画・運営
幹 事	松 尾 尚 慈	39	企画・運営
幹 事	大 川 博 幸	43	○広報
幹 事	兼 清 照 久	45	組織・会則
幹 事	来 戸 由 起 子	47	広報
幹 事	木 村 則 夫	49	企画・運営
幹 事	時 盛 真	52	組織・会則 野球後援会会長
幹 事	益 田 圭 一	H7	PTA 会長
幹 事	芳 岡 統	62	広報
幹 事	山 根 猛 寿	62	広報
幹 事	濱 岡 正 美	63	広報
幹 事	松 並 宏 昌	H2	広報
幹 事	佐 々 木 孝 高	H3	広報
幹 事	北 川 宣 孝	H8	広報
監 査	大 川 博 幸	43	
監 査	小 林 敬 典	45	
事 務 局	宮 秋 孝 史	57	
事 務 局	原 田 浩 志	61	
事 務 局	高 村 栄	H9	
事 務 局	金 光 和 也	H16	
事 務 局	廣 田 英 恵	H24	



みたらひ学園歌 葛原 菡作詞 信時 潔作曲

一 御空にゆるく波うちて 二 眞晝日高く輝やきて 三 虹の松原象鼻岬
 朝日に映ゆる峰つづき 島山戸御氣周防灘 鼓が浦に御手洗に
 峨帽の山松笑ましくも 船路遙けく渡るにも 碎けささやき湛ふれど
 しめすは常盤のいろにして 力は「まこと」の舵にして 濁らぬ夕の潮にして
 誓ひて強かれ新し使命 希望も豊けく放てよ眼 競へど睦みてほこれよ清く
 ああ室積、室積樂しき學舎 ああ室積、室積樂しき學舎 ああ室積、室積樂しき學舎

山口縣立室積高等女學校校歌

校友会文化部 作詞
 山田 和 男 作曲

一 松吹く風も 和やかに 二 白雲宿す 千坊の 三 嵐をのがれ 浪をさけ
 ささ波よする 虹が濱 峰より高き わが理想 より来る船を 抱きつつ
 潮のみどりに 浮ぶ帆の 操を磨き わざを練り まもるや港 室積の
 眺めつきせぬ 地を占めて 再び國を 興すべき やさしき情 身にうけて
 學びの園に 榮えあり 若き命に 光りあり 勵む少女に 恵あり
 學びの園に 榮えあり 若き命に 光りあり 勵む少女に 恵あり

光高等學校校歌

横尾石夫作詞 信時 潔作曲

一 御稜威四海に燦として 二 大みをしへにかしこみて 三 雲烟萬里すめらぎの
 今ぞ明けゆく大東亜 御旨に副はむ朝に夕 御旗は進む時ぞ今
 周防の灘のあら潮に 螢雪窓に文をよみ いさをし薫る父祖の血に
 雄心きそふ健児吾れ 練武に不磨の剣をとく 吾れも恥なき神州児
 かゞやけ光擧げよその名 かゞやけ光擧げよその名 かゞやけ光擧げよその名
 吾が學び舎はこゝに成りぬ 吾が學び舎はこゝに成りぬ 吾が學び舎はこゝに成りぬ

校歌・応援歌

応援歌

一 紺青の旗 紺青の旗 安富 功作詞 那須康子作曲
 若き者われら 掲げて高し 掲げて高し
 若き者われら スクラム組まん 若き者われら たたかい取らん
 若き者われら スクラム組まん 若き者われら たたかい取らん
 青春の氣あふれて 高らかに 精銳の氣みなぎり たちまちに
 進軍の歌声ぞわく 歌声ぞわく 喜びの歌声あがる 歌声あがる
 たたえよ光 たたえよ光 たたえよ光 たたえよ光
 たたえよ光 光 光 たたえよ光 光 光

野球部応援歌

一 天地の正気光陵に 二 光ヶ丘の春の夕
 籠りてここに五年間 ノックの響雲に入り
 その春秋に磨きたる 周防の灘の冬の朝
 光龍健児八百の 霜を砕きて球競
 中より出でし野球部の 雨に嵐に練習に
 誉は世々に盡ぎさらむ 苦心を積みし年月や

新 山口県立光高等学校 校歌

作詞：弘中 幸雄

作曲：神田 清治

Maestoso ♩=104

う ち う の そ め が て い ひ つ は の ぼ り と み さ ん き か
 や ゆ ま う な み そ び え つ て は む ん の め を ぼ さ つ り た く み せ く さ ん も き か
 5 は く あ さ し に き つ ひ き つ に ぎ ま あ さ ら る た か せ じ い り え つ
 9 い の お ど か う ま か し な げ き び と む や な ね に り に し ひ か ん と し
 13 の り は た と は ひ る が え る わ
 る は ひ じ ま り の ゆ め い を し ゅ え お ん ふ 一 わ
 17 ら ら 一 ひ こ か ろ の に ス ク ク ラ ー ム を ま と む
 ら ら 一 む か こ ね ろ は に ひ か か ラ ー ム を ま と む

新 山口県立光高等学校 校歌

作詞 弘中 幸雄
作曲 神田 清治

一 内海染めて 陽は昇り

岬は朝に 包まれる

精鋭集う 学び舎に

進取の旗は ひるがえる

我ら光のスクラムを組む

二 自由の気概 紡ぐ郷

先覚の志気 日に新た

自律の丘に 風となり

一人ひとりの 夢を追う

我ら心に光をまとう

三 山なみそびえ 天を衝く

雲峰をなし 樹木清か

切磋琢磨の 四季胸に

奏でる自前の 青春譜

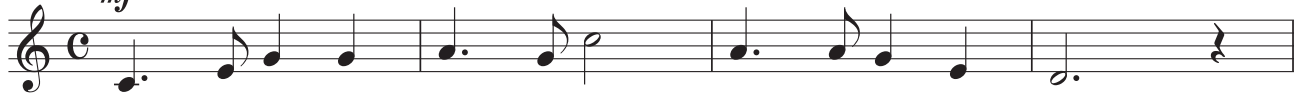
我ら胸張り光へ歩む

山口県立光高等学校校歌

光高校校歌選定委員会 作詞
信時 潔 作曲

♩=108 ca. 力強く

mf



1. き た ぼ う の ひ か り さ ん と し て
2. た ば か り り そん か の の さ み ね に さ と くり
3. ひ ち ろ く ぶ ん か の の す い を と くり



い ま 一 ま ぞ と あ も け ゆ く し ん に ほ ん
ま 一 こ も と ら せ け と い め くの し あ じ さ ゆ な う ゆ じ ん



す け お う の な だ の あ ら し お 一 に
し か せ い つ ま と だ の に ふ ら し お 一 に
し か せ い つ ま と だ の に ふ ら し お 一 に



き た え み が か ん み と こ こ ろ
せ た ん こ に ふ か ま の そ う ち を ね て る
ゆ る が が ぬ へ ま い の わ ち た て る }

f



か が や け ひ かり あ 一 げ よ そ の な



わ が ま 一 な 一 び や に さ 一 か え あ れ

発 行 山口県立光高等学校光潮同窓会
山口県光市光井 6-10-1
TEL 0833-72-0340 (光高等学校)

印 刷 中村印刷株式会社